

第59回 定時株主総会

平成29年10月27日（金）

市場：東証JASDAQ
証券コード：3441

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー
株式会社 山王

株主のみなさまへお願い



会場内では、
スマートフォン・携帯電話な
ど情報機器の電源をお切りい
ただくか、
マナーモードにしてください。

会場内での
「喫煙」、「撮影」、
「録音」は ご遠慮ください。



入場票のご説明

- ご出席番号票は、株主総会終了までお持ち下さい。
- ご発言の際は、ご出席番号票に記載の番号とお名前をお申し出ください。
- 再入場の際は、ご出席番号票が必要となります。ご出席番号票を受付にてご提示下さい。

開 会

議決権数

平成29年7月31日現在：発行済株式総数

5,000,000株

* 自己株式384,050株含む

本総会において議決権を有する株主数

3,030名

議決権数

46,149個



監査報告

監査報告

取締役
常勤監査等委員

中村 宏明

▶ 事業報告

1. 企業集団の現況に 関する事項

▶ 事業報告

1. 企業集団の現況に 関する事項

① 事業の経過及びその成果

世界：回復基調

- ▶ 米国： 好調な雇用情勢を背景に景気回復基調続く
- ▶ 欧州： 雇用情勢の改善を受け個人消費持ち直す
企業設備投資も改善傾向、緩やかな回復基調
- ▶ 新興国：中国では景気減速懸念あるものの、輸出拡大で
全体として回復基調

+

日本：緩やかな回復基調

- ▶ 米国など世界経済改善による輸出増加
- ▶ 個人消費や設備投資にも持ち直しの兆し
- ▶ 他方、深刻化する人手不足で今後経済活動が停滞する懸念

① 事業の経過及びその成果

当社グループが属する電子工業界 総じて好調な事業環境

- ▶ 車載・産業機器向け市場での部品需要が拡大
 - ・ 自動車部品の電子化、工場のIoT化の進展
- ▶ IT機器市場でも、
(スマートフォン・タブレット端末等)
 - ・ 高機能化に伴う部品需要の拡大

① 事業の経過及びその成果

当社グループの取り組み
スマートフォン向け製品、車載向け製品等の
主力製品を中心に積極的な受注活動を行う
+

前期からの収益改善施策を継続

- ▶ 歩留まり改善
- ▶ 生産性向上
- ▶ 経費削減等

収益基盤の確立を図る

① 事業の経過及びその成果

売上高

7,317百万円

(前連結会計年度比 +14.2%)

営業利益

8百万円

(前連結会計年度： △394百万円)

経常利益

23百万円

(同上： △476百万円)

親会社株主帰属
当期純利益

68百万円

(同上： △555百万円)

1. 企業集団の現況に関する事項

3 ページ

- ② 設備投資の状況
- ③ 資金調達の状況

に関する各項目については

お手許の招集ご通知をご覧ください 13



▶ (4) 対応すべき課題

(4) 対処すべき課題

当社グループの基本理念

「表面処理で社会のインフラを支え、
人々の暮らしの安全、便利な社会の実現に貢献する」



創業来培った表面処理加工業のノウハウ活かし、
お客様のご要望に対応して存在価値を高める

(4) 対処すべき課題

① 受注多様化の推進

スマートフォンなど
情報通信機器を主軸とした事業展開

+

自動車分野や産業機械など
様々な分野にめっきの用途は拡大

当社創業来の表面処理加工技術の応用と
新たな市場での事業展開

受注の多様化

(4) 対処すべき課題

② 品質管理手法の向上

品質管理の重要度は益々高まりつつある

電子機器の小型化・高機能化で
加工仕様の精細化すすむ

業績への影響度合いも増加



先行予防的な品質管理を強化、
品質保証投資を行い、
安定的な品質を確保

(4) 対応すべき課題

③ 生産能力と生産性の強化

労働環境の改善
人員増強など

+

生産体制の整備
設備能力増強
省人化投資

(4) 対処すべき課題

④ 海外子会社を含めた一体経営の推進

中国、フィリピンの海外拠点

- ▶ 国内同様の事業展開だが
各国の事業環境などがもたらす
様々な課題あり

各拠点对応＋本社部門の積極的支援



課題を早期改善し、収益性を高める

(4) 対処すべき課題

⑤ 新規事業の立ち上げ

当社の培ってきた技術の応用
「水素透過膜」「銀めっきアクリル粒子」

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
福島再生可能エネルギー研究所
「被災地企業のシーズ支援プログラム」
(平成29年度再採択)で 性能評価等の支援

特許取得

再生可能エネルギー分野への貢献含め
早期事業化を図る

今後とも変わらぬ
ご支援を賜りますよう
お願い申し上げます。

その他企業集団の現況に関する事項

4～7ページ

- (2) 財産及び損益の状況の推移
- (3) 重要な親会社及び子会社の状況
- (5) 主要な事業内容
- (6) 主要な営業所及び工場
- (7) 使用人の状況
- (8) 主要な借入先の状況
- (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

に関する各項目については

お手許の招集ご通知をご覧ください 22

2. 会社の現況

8～18ページ

- (1) 会社の株式に関する事項
- (2) 会社の新株予約権等に関する事項
- (3) 会社役員に関する事項
- (4) 会計監査人の状況
- (5) 業務の適正を確保するための体制
及び運用状況の概要

に関する各項目については

お手許の招集ご通知をご覧ください 23

▶ 第59期連結計算書類の 内容報告の件

貸借対照表（連結）①

（単位：百万円）

科目	金額	科目	金額
流動資産	6,169	流動負債	2,973
固定資産	2,887	固定負債	960
有形固定資産	1,996	負債合計	3,934
無形固定資産	20	純資産合計	5,122
投資その他の資産	870		
資産合計	9,057	負債・純資産合計	9,057

（平成29年7月31日現在）

貸借対照表（連結）②

（単位：百万円）

科目	金額
株主資本	4,242
資本金	962
資本剰余金	870
利益剰余金	2,534
自己株式	△125
その他の包括利益累計額	880
その他有価証券評価差額金	327
為替換算調整勘定	552
純資産合計	5,122

（平成29年7月31日現在）

損益計算書（連結）

（単位：百万円）

科目	金額
売上高	7,317
営業利益	8
経常利益	23
特別利益（投資有価証券売却益）	84
特別損失（減損損失）	7
法人税等＋法人税等調整額	32
親会社株主に帰属する当期純利益	68

（平成28年8月1日から平成29年7月31日まで）

連結株主資本等変動計算書

21ページをご覧ください。

お手許の招集ご通知をご覧ください 28

第59期計算書類（単体）

22～24ページをご覧ください。

お手許の招集ご通知をご覧ください 29

▶ 決算の状況と今後の方向性

平成29年7月期ハイライト：

2桁増収により、3期ぶりに黒字化達成

売上高73.2億円
↑ +14.2%

産業機器用、自動車用など
旺盛な電子部品需要を反映し積極受注

営業利益
8百万円

コストコントロールで、黒字化確保

受注量：↑ = 増収基調継続

歩留まり改善、生産性向上

人件費上昇でも、黒字体質へ

平成30年7月期見通しについて：

足元の事業環境

スマホ・タブレットメーカー向けの需要は引き続き旺盛、
産業機器需要も加わり、車載向けも堅調持続



今期の事業に対する見方

旺盛な受注依頼に対して生産能力が追いつかない状況
当面は、稼働率向上と不良品発生率減少で
収益最大化を目指す



売上増加で、利益増加、黒字化定着を見込む

平成30年7月期 業績見通し

順調な事業環境の下、積極受注の継続で増収増益へ

▶ 売上高 : 78億円 (+4億8300万円)

▶ 営業利益 : 90百万円

▶ 当期純利益 : 25百万円 (特別利益想定せず)

(単位 : 百万円)

	H29/7 実績	H30/7 計画	増減額	前期比 (%)
売上高	7,317	7,800	+483	+6.6
営業利益	8	90	+82	+984.7
経常利益	23	55	+32	+133.1
親会社帰属 当期純利益	68	25	△43	△63.3

昨今の電気めっき業界環境

業界環境は継続して良好で、将来性がある

- 装置産業で新規参入が容易ではない
- 供給先の電子部品業界は日本企業に優位性あり
- 電子部品の用途は多様で広い
 - 携帯電話など通信機器の更新需要
 - 自動車の電子化
 - たばこの電子化、工場のIOT化など
- 電子部品の技術更新需要がある
 - 次世代接続端子など



だが、人手不足もあり受注体制が追いつかない
ビジネス機会を十分に切り切れていない

営業指揮力強化による組織的営業の展開 35

営業活動の可視化 + 情報共有体制の構築

顧客ニーズを素早く適確にとらえる

積極的設備投資によるQ.C.D競争力の向上

顧客が注力する市場
へ営業展開

市場ごとの深耕

国内・海外とも生産体制を再強化

国内：旺盛な需要に対応し、生産性強化、
めっきラインの増設等、受注体制を強化し売上を拡大

東北工場



鈴川工場



秦野工場



海外：拠点の重要性再認識で事業拡大へ

SPMC(フィリピン工場)

東南アジア戦略上の重要拠点
品質管理強化に注力



山王電子(中国)工場

環境問題の深刻化で日本品質への
評価高まり拡販へ



資本（配当）政策について

▶ 平成29年7月期：構造改革期で「無配」を予定

平成29年7月期：事業改革・組織体質強化に
一定の成果が出て、黒字化を達成

+

確実に成長軌道にのせるため、
事業価値を高める設備更新・能力増強投資を具体化、
売上成長へ向けた事業・投資資金確保を最優先

▶ 平成30年7月期：成長投資優先で「無配」を想定

さらに収益力が回復次第、復配を視野へ



決議事項

第1号議案

取締役（監査等委員である取締役を除く）7名選任の件

1 こうやま ふみなり
 甲山 文成
 (現任)

3 みうら ひさし
 三浦 尚
 (現任)

5 あらまき たくや
 荒巻 拓也
 (現任)

7 はまぐち かずお
 浜口 和雄
 (新任)

2 すずき けいじ
 鈴木 啓治
 (現任)

4 てるい ひでき
 照井 英樹
 (現任)

6 いのうえ てつや
 井上 哲也
 (新任)

第2号議案

監査等委員である取締役3名選任の件

- | | | | | | |
|---|---------------------------|-------------------|---|--------------------------|------------------|
| 1 | わたなべ
渡邊
(新任) | かずひさ
和久 | 2 | こうず
神津
(現任) | しげと
重人 |
| 3 | てらさき
寺崎
(現任) | けんいち
賢一 | | | |

第3号議案

補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

さとう	かつひろ
佐藤	克洋

当社顧問弁護士

当社補欠の監査等委員（現任）



ご発言・ご質問

お願い

- ご質問のある株主様は挙手いただき、指名されましたら左右いずれかのマイクにお進み頂きご質問ください。
- **ご出席番号票とお名前**をお知らせください。
- なるべく多くの株主様からご質問をいただきたく、関連質問も含めて**お一人様3問まで**のご質問でお願い致します。



議案採決

決議事項議案

第1号議案

取締役（監査等委員である取締役を除く。） 7名選任の件

決議事項議案

第2号議案

監査等委員である取締役 3 名選任
の件

決議事項議案

第3号議案

補欠の監査等委員である取締役
1名選任の件

閉 会

取締役のご紹介

第59回 定時株主総会

ありがとうございました。

これからも株式会社山王を引き続きご支援賜ります
ようお願い申し上げます。

市場：東証JASDAQ
証券コード：3441

貴金属表面処理加工分野の
リーディングカンパニー

株式会社 山王